

第2回北海道地域学校協働活動推進協議会兼コーディネーター等協議会（道北会場）

【道北】平成30年10月26日（金）（旭川市・上川合同庁舎講堂 他） 参加者：80名

- 1 説明 「一体型・連携型の放課後児童クラブ、放課後子供教室について」  
説明者 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴 宏

放課後児童クラブ・放課後子供教室の取組の状況等について、国の施策や道内の現状、今後の方向性などについての説明がありました。

新・放課後子ども総合プランの策定のポイントや北海道の状況、今後の展望について、先進地の事例を交えながら説明があり、参加者からは、「これからは一体型で進めることが大事であると感じた」、「児童・生徒の放課後の居場所について改めて考える必要があると感じた」などの感想が寄せられました。



- 2 事例発表 「外部機関と連携したプログラムについて」  
発表者 浜頓別町教育委員会生涯学習係長

岩田 幸 尚 氏

浜頓別町の外部人材を活用した放課後子供教室・児童クラブ、土曜日の教育活動などの地域学校協働活動について事例発表がありました。

地域の団体、大学生、ALT等、様々な外部機関と連携し、子どもたちに多様な学びを提供するとともに、人と人が繋がることで、さらに協力の輪が広がっていく様子が発表され、参加者からは「多様な活動を協働により実施している点が参考になった」、「色々な方にサポートされて活動しているところがとても素晴らしいと思う」などの感想が寄せられました。



- 3 講義 「子どもの貧困の状況及び北海道の対策について」  
講師 保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課自立支援グループ主査 嘉多山 裕 史 氏

子どもの貧困の状況について、今後の取組の方向性について説明がありました。

講師から、具体的な貧困の状況や北海道の現実、相対的貧困と絶対的貧困、貧困の連鎖、子どもの貧困の見えにくさについて、調査結果を基にしたデータが示され、対策の一つとしての子どもの居場所づくりの取組について説明がありました。

参加者からは「貧困の状況を知り改めて驚いた。対策が急務であることを実感した」、「私たちにできることは何なのかを見つめ直す機会となった」などの感想が寄せられました。



#### 4 コーディネーター等協議会

講師 学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ主査 石田 貴宏

地域学校協働活動のコーディネーターや推進員、地域連携担当教職員として必要な知識や技術を身に付けるための研修を行いました。

テキストを活用し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動、コーディネーターの役割について理解を深めた後、熟議を体験しながら、各地域の課題を交流し、解決に向けた話し合いの進め方を学びました。

参加者からは「活発な意見が出されていた。立場の違いで見えているものが少しずつ違って参考になった」、「情報を伝え、共有することが大事であると感じた」などの感想が寄せられました。



#### 5 選択研修

##### A 「創作活動プログラム」

講師 道立青少年体験活動支援施設ネイバル深川社会教育主事 一 関 真希夫

特別な道具を必要とせずに取り組める、クリスマスにちなんだ創作活動について、体験をとおして学びました。

低学年でも取り組める内容の創作活動について説明があり、まつぼっくりを使ったクリスマスツリー、カラーセロファンを使ったスタンドグラスなどを制作しました。

参加者からは「簡単につくれるアイデアとして、勉強になった」、「小学生でもできそうな工作だったので、参考になった」などの感想が寄せられました。



##### B 「子どもの学力向上につながるプログラム」

講師 旭川市立朝日小学校教諭

福嶋 顕勝氏



身近な道具を使用し、誰でもできる理科実験をとおして学習に対する意欲を喚起する手法について学びました。

電気の力を体感する実験、LEDを使った光の実験など、身近な事物・現象や不思議を理科の知識で解き明かす活動を行いました。

参加者からは「子どもの興味をそそる理科実験が面白かった」、「実験が幼児から中学生、大人でも楽しめる内容で、興味深かった。身近なもので実験できそうなので、取り入れていきたい」などの感想が寄せられました。

C 「障がいのある子どもや特別な支援を要する子どもへの対応」

講師 上川教育局教育支援課義務教育指導班指導主事

但田 寛 和

障がいのある子どもや特別な支援を要する子どもへの対応について、演習形式で学びました。

ある事例の対策をグループで考える「インシデント・プロセス法」を用い、課題の解決に向けてみんなで考えるという話し合いの方法を学び、実際に体験しました。

参加者からは「障がいの有無に関わらず、子どもへのアプローチを考える機会となった」、「児童理解、協働での解決へのプロセスについて学ぶことができた」などの感想が寄せられました。



D 「屋内活動プログラム」

講師 (株)True Color 認定ヴィジョン・スパイラルマスタートレーナー 西田 望美 氏



今話題の「ぬりえ」の要素を活用し、色の持つ効果と色彩心理、活動時の留意点について、体験をとおして学びました。

色の持つ効果や作用、「ぬり絵」の活動からうかがえる子どもの心理の説明があり、実際に「ぬり絵」の活動を行いました。

参加者からは「当たり前のように目にする色の意味を改めて知ることができた」、「職場で子どもたちのぬり絵を気にして見たいと思う」などの感想が寄せられました。

6 情報交流 日常の取組や現状と課題の交流

進行 上川教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事

佐々木 直 人



事業区分ごとのグループに分かれ、「他との連携」をテーマに、日常の取組や現状、課題の交流等をおして、各地域における活動の充実に向けた情報交流を行いました。

他の施設や市町村の取組について知る、貴重な機会として、参加者は積極的に情報交換を行いました。

参加者からは「視野や考え方が広がった。また、自分の取組の振り返りや整理につながった」、「外部との関わりを深めるには、内部で連携し、信頼関係をよくしなくてはならないことを再確認できた」、「他施設での取組等、現状をおしての話や課題を話し合うことができてよかった」などの感想が寄せられました。